

平成 28 年第 3 回大崎市議会定例会一般質問発言通告書

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
1	13	遊佐辰雄	<p>1 観光振興政策について</p> <p>(1) 観光振興ビジョンの早期達成に向けての推進体制について</p> <p>(2) 鳴子温泉の源泉に対する維持管理支援策について</p> <p>(3) 鳴子温泉地域への新たな観光集客施設等の建設について</p> <p>(4) オニコウベスキー場のリフトを延長し、各種大会の誘致をできるようにすべきではないか</p> <p>2 中小商工業者の振興策について</p> <p>(1) 中小企業・小規模企業振興条例の制定に向けた大崎市の取り組みと見通しについて</p> <p>(2) 中小企業を元気にするための具体策を伺う</p> <p>(3) 企業、業界団体等との協議はどう考えているのか</p>
2	12	関 武徳	<p>1 都市基盤整備の進捗と今後の整備着手の考え及び用途計画の変更について</p> <p>(1) 李埵新田線の進捗と、次期整備の路線調査業務のスケジュールを伺う</p> <p>(2) 稲葉小泉線の取り組みと進捗状況</p> <p>(3) 土地利用計画、用途指定変更はどう考えるのか</p> <p>(4) 政策空家、老朽市営住宅改廃の進捗と跡地活用計画の取り組み状況</p> <p>2 次期総合計画や地方創生を担う人材育成について</p> <p>(1) 希薄化が問われる地域コミュニティ強化への対応策と次世代育成への取り組み</p> <p>(2) 移住、定住促進への行政、地域の環境整備の進捗</p> <p>(3) 大崎の仕事、職人、技の映像化の考えは</p> <p>(4) 本市伝統工芸品技術、文化の継承と担い手育成助長への取り組みの考えは</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 地元工芸品、工人の市民認識の向上策</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 幼少期からの使用機会の創出支援の考えは</p> <p>3 子育て支援強化への取り組みについて</p> <p>(1) 子供の貧困や虐待防止への機関連携の強化は</p> <p>(2) 子供の意欲や目標達成を支援する環境整備</p>
3	15	相澤孝弘	<p>1 災害に強いまちづくりについて</p> <p>(1) 9・11 から 1 年経過した現在、豪雨のたびに不安な暮らしの日々にあり、安心できるまちづくりを市民は求めているが、市の考えについて伺う</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 大崎市防災計画第 3 編風水害等災害対策編について</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 市内の排水路等の整備計画について</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 治水対策としてのダム建設の期待と事業の見通しについて</p> <p>2 市民の求めに早期に応える行政システムについて</p> <p>(1) 合併後 10 年を振り返り、これからの 10 年後の大崎市を住んでよし、仕事してよし、学んでよし、暮らして</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
4	29	小沢和悦	<p>よしというように、どのようにして市民の満足度を向上させるか、魅力ある、期待が持てる、夢が持てる地域づくりの推進について伺う</p> <p>ア 人口減少傾向に対する取り組みについて イ まちなか再生に向けた取り組みについて ウ 産業振興に向けた考えについて エ 公共交通網形成について</p> <p>1 大崎市地域公共交通網形成計画の実施に関する留意事項について</p> <p>(1) 基本姿勢を示す条例と理念、目標を含む計画について (2) 高齢者運転免許証自主返納支援制度など、きめ細やかな心配りについて (3) 交通空白地域解消と利便性向上を目指し、専任職員体制を強化することについて</p> <p>2 三本木県有地の有効利活用について</p> <p>(1) 三本木パークゴルフ場整備事業の進捗状況等について (2) 平成 29 年度事業に関する宮城県重点要望事項にある「基幹的広域防災拠点」の候補地について (3) 広域防災拠点の役割を果たす「広域防災公園」を、兵庫県三木防災拠点施設のような陸上競技場、球技場、野球場、屋内テニス場、芝生広場、子ども遊び場等を備えた総合運動公園として活用することを宮城県に働きかけることについて</p> <p>3 地元業者を育成し、若者が大崎市に住み、生活できる労働環境を整備することについて</p> <p>(1) 若者が市内で働き、家庭を持ち、子どもに高等教育を受けさせることができる安定した収入を得られるようにするために、大崎市ができる施策について (2) 大崎市の事業に当たる経営者の健全で安定した経営環境を確保するために、大崎市ができる施策について (3) 大崎市の契約や委託に当たって、人件費は安ければ安いほどいいという考えを捨てることについて</p> <p>4 大震災など被災地で頑張る自衛隊員を「戦死」等させないための行動について</p> <p>(1) 南スーダンに 11 月派遣予定の陸上自衛隊第 9 師団第 5 普通科連帯主体の 11 次隊に宮城県と大崎市出身者は何名いるか (2) 市長は、安保関連法発動の危険から自衛隊員を守る行動を起こすべきではないか</p>
5	8	鎌内つぎ子	<p>1 地域医療構想について</p> <p>(1) 大崎市の現状と今後の対応について</p> <p>2 旧南病棟の対策について</p> <p>(1) 旧南病棟の休止措置の対応について (2) 旧南病棟の活用策について</p> <p>3 市民病院での不在者投票について</p> <p>(1) 患者様に不在者投票を徹底するための対策について</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
6	21	木内知子	<p>4 通学路の安全対策について</p> <p>(1) 平成24年に文部科学省より通学路の交通安全の確保の徹底について依頼があった後、本市ではどのような対策をとっているのか</p> <p>1 放射性物質汚染廃棄物の問題について</p> <p>(1) 汚染牧草の保管状況について</p> <p>(2) 放射能濃度測定後の市町村長会議での対応について</p> <p>2 災害時の対応について</p> <p>(1) 避難準備情報の発令時期について</p> <p>(2) 避難所指定箇所について</p> <p>(3) 避難所での情報提供について</p> <p>(4) 非常食の活用のあり方について</p> <p>3 「子ども貧困」の解決に向けて</p> <p>(1) 実態把握の状況と市全体の現状はどうか</p> <p>(2) その対応策は</p> <p>(3) 子ども食堂への考えと対応について</p>
7	22	豊嶋正人	<p>1 職員の健康管理について</p> <p>(1) 時間外勤務の実態</p> <p>(2) 長期にわたる長時間労働はないか</p> <p>(3) 精神、神経に関する病休、退職者の状況</p> <p>(4) ストレスチェックの実施方法、情報管理と活用策</p> <p>2 中学校の部活動（運動部）の休養日と指導者体制について</p> <p>(1) 1997年の文部省（現文科省）有識者会議で「土日に実施する場合は3～4時間で練習を終えること」と示しているが、実態は</p> <p>(2) 長時間練習と、多忙な教員に対する教育委員会の考え方</p> <p>(3) 外部指導者の存在は</p> <p>(4) 小学校の特別クラブ（中学校の部活と同じもの）の存在と練習時間（朝練習、放課後）</p> <p>3 中学校の制服の学校間価格差はどの程度か</p> <p>(1) 購入システムと価格差</p> <p>(2) 生徒の希望は取り入れられているか</p>
8	2	佐藤仁一	<p>1 観光産業の基盤をなす人材育成施策などについて</p> <p>(1) こけし工人、漆器工人、竹細工工人など特産工芸の後継者育成のための安定的な奨学支援制度の確立と、人材バンクやデザイン、販促企画などの総合支援システムについて問う</p> <p>(2) 地域の観光マネージメントとマーケティングを一体的に担う人材育成と組織強化策を問う</p> <p>2 第2次総合計画に向けた多極ゾーニングについて</p> <p>(1) 1市6町の合併時における新市計画から10年を経て、第2次総合計画の策定と目指す将来像を問う</p> <p>(2) コンパクトシティ・プラス・ネットワークと連動する多極ゾーニングに挑戦し、地域資源活用型定住生活</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>圏形成への気概を問う</p> <p>3 大崎市図書館等複合施設工事費等における一連の増嵩、遅延について</p> <p>(1) 新図書館建設構想での約 21 億円から、現時点では約 46 億円と増嵩してきた。市民要望を含め、東日本大震災後の建設資材等の上昇などは理解するが、構想企画、庁舎内連携、工事発注手順などの点で学ぶ点、反省すべき点を問う</p> <p>(2) 開館に向けたソフト面の準備状況と、今後の生涯学習拠点施設整備構想との連動性を問う</p>
9	5	佐藤弘樹	<p>1 人材育成基金創設への考えについて</p> <p>2 協働教育コーディネーターの活動現況と拡充策について</p> <p>3 観光振興ビジョンの進捗と市民周知について</p> <p>4 防災行政無線及び補完システムの整備状況について</p> <p>5 移動市長室等での広聴と地域課題対応について</p>
10	20	山村康治	<p>1 障がい者、高齢者施設等における安全対策について</p> <p>(1) 7月26日午前2時ごろ、神奈川県相模原市にある知的障がい者施設、津久井山ゆり園において発生した事件はまさに信じがたく、猟奇的な凶行に震撼させられた。入所利用者男女19人が死亡、27人が負傷したこの事件を受けて、大崎市における同様の施設の安全管理体制をどう考えているのか、所見を伺う</p> <p>(2) 8月30日に東北地方に上陸した台風10号により各地で甚大な被害をこうむったことが連日のマスコミで報道されている。とりわけ岩手県岩泉町の小本川の氾濫により、高齢者グループホーム「楽ん楽ん」の入所者9人の方が犠牲になった。自然災害とはいえ、早めの避難等で防ぐことはできなかったのか徹底した検証が求められているところであるが、大崎市としてこのような施設の災害、特に水害に対しての避難マニュアルは作成しているのか、伺う。また、避難訓練等の実施状況はどうなっているのか、伺う</p> <p>2 「障がい」の表記について</p> <p>(1) 「害」という字は邪魔（損なう、妨げ、災い）という意味が含まれ、負のイメージがあるため、地方自治体や企業では「害」をひらがなで「がい」と表記しているところもある。大崎市でも、法令等関連を除き、「障害」を「障がい」とひらがな表記にしてはどうか、所見を伺う</p>
11	18	後藤錦信	<p>1 有害鳥獣被害対策の取り組みについて</p> <p>(1) 被害の現状とその対策について</p> <p>(2) 有害鳥獣被害対策実施隊の組織に向けて</p> <p>(3) 有害鳥獣被害対策協議会の活動について</p> <p>2 地方創生への取り組みと都市との連携について</p> <p>(1) 台東区等都市交流の推進の中で、地方創生の事業実施</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
12	19	氏家善男	<p>にどう生かしていくか</p> <p>3 公文書の管理について</p> <p>(1) 公文書の管理の現状について</p> <p>(2) 公文書館（仮称）の整備について</p> <p>1 交通安全協会の運営について</p> <p>(1) 交通安全協会の運営をどう把握しているのか</p> <p>(2) 厳しい運営状況（玉造地区交通安全協会）に鑑み、市の支援が必要と考えるが、所見を伺う</p> <p>2 豪雨災害対策について</p> <p>(1) 9・11 豪雨による河川被害の復旧状況について</p> <p>(2) 復旧による安全度はどれくらい高まったと認識できるか</p> <p>(3) 大雨による水害の常襲地における排水対策と総合計画への事業の盛り込みについて</p> <p>(4) 中小河川の本改修の事業促進について（上真山神明・機織地内，下真山箱形，下川原地内など）</p> <p>3 岩出山地域の小学校統廃合について</p> <p>(1) 統合への合意形成は得られたか</p> <p>(2) 4 小学校の通学手段について</p> <p>(3) 駐車場の確保について</p> <p>(4) 伝統芸能の継承に不安があるが</p> <p>(5) 統合後の跡地利用について</p>
13	6	中鉢和二郎	<p>1 鳴子温泉をこのまま寂れさせていいのか</p> <p>(1) これまでも県の観光統計の数字を示し、鳴子温泉郷の衰退に警鐘を鳴らしてきた。市は「大崎市観光振興ビジョン」を策定し、観光振興に力を入れると答弁するが、低迷に一向にブレーキがかからない。</p> <p>そのような中、先般の国民保養温泉地の指定は朗報と期待するが、誘客へどのようにつなげるのか具体的な方策が見えない。</p> <p>また、平成 29 年の冬季には J R 東日本の「トランスイート四季島」が鳴子温泉駅に立ち寄る計画となっているが、この対応も明らかになっていない。</p> <p>大崎市の奥座敷、鳴子温泉郷をどのように再興するのか、所見を伺う</p> <p>2 地熱の利活用と開発規制について</p> <p>(1) 東日本大震災後、再生可能エネルギーが見直され、地熱の利活用に新たなスポットが当たりだした。</p> <p>既存の温泉から得られるエネルギーも含め、地熱の利活用は鳴子温泉再興の起爆剤となる可能性を秘めていると考える。</p> <p>一方、現在の開発規制は不十分との指摘も聞かれる。つまり、無秩序な開発による既存の権益への侵害や地元以外の資本による収奪的となる懸念がある。</p> <p>地熱の利活用の促進と開発規制の強化という相反する命題をいかに解決する考えか、所見を伺う</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
14	11	横山悦子	<p>3 オープンガバメントについて</p> <p>(1) 透明性を確保し、国民が政治や行政に積極的に参加し、そして組織の枠を超えた官民連携を目指す「オープンガバメント」に向けた動きが地方自治体においても進んでいる。</p> <p>福井県鯖江市や福島県会津若松市、千葉県流山市、神奈川県横浜市が先進地である。鯖江市では、インターネット上で情報を公開する「データシティ鯖江」構想を推進し、公営バスのリアルタイム位置情報やAEDの設置場所、人口や気温、市内の無線LANアクセスポイントの設置場所など、さまざまな情報を公開している。</p> <p>情報公開や市民の行政参加、官民連携を推進するための取り組みなどは以前からあったが、インターネットの普及やICTの進化により、それらを効率的に、そして効果的に実現できるようになった。</p> <p>大崎市においても、この「オープンガバメント」は市民サービス向上に大いに役立つと期待される。そこで、導入の考えを伺う</p> <p>4 市内の伝統工芸を図書館建設に活用できないか</p> <p>(1) 新図書館建設も佳境に入ってきたが、図書館の内装等に市内の伝統工芸技術が活用できないか。</p> <p>市内には、岩出山のしの竹細工と鳴子漆器、鳴子こけしなどの伝統工芸があるが、それらの高度な技術を図書館建設に生かすべきと考える。</p> <p>しの竹細工はランプシェードや置物として、鳴子漆器は内装の塗装として、鳴子こけしは手すりやドアノブとして活用できると考える。</p> <p>そのほかにも転用可能な技術やデザインが色々あると考えるが、この機会に本物の伝統工芸技術を広く市民の見える所に活用し、市民の理解を促進するとともに、市内伝統工芸の振興に役立てるべきと思うが、所見を伺う</p> <p>1 障害者差別解消法について</p> <p>(1) 障害者差別解消法に基づく対応要綱の策定に早期に取り組むべきと考えるが、本市の考えは</p> <p>(2) 読み書きが困難な状況は、障害者差別解消法第2条で規定する社会的障壁である。その社会的障壁除去のため、読み書き（代筆・代読）情報支援サービスを実施すべきと考えるが、本市の考えは</p> <p>ア 情報支援サービスとして、図書館での対面朗読を実施すべきと考えるが、どうか</p> <p>2 予防接種事業について</p> <p>(1) 平成28年10月からB型肝炎ワクチンが定期接種化される。4月から8月まで生まれた子供が全て10月に接種できるのか。医師会との協議が必要と考えるが、</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
15	26	佐藤 勝	<p>どうか</p> <p>(2) 何らかの事情により3回目の接種が生後1歳を超える場合が考えられるが、その場合の対応について</p> <p>3 子育て環境の充実について</p> <p>(1) 児童センター及び放課後児童クラブの利用料を原則無料にし、気軽に利用すべきと考えるが、どうか</p> <p>(2) 子ども医療費を入院、通院ともに所得制限撤廃の方向性は</p> <p>4 学校施設について</p> <p>(1) 小中学校のトイレの洋式化を推進すべきと考えるが、どうか</p> <p>(2) 児童生徒の老朽化した机、椅子の交換時期と予算について</p> <p>(3) 校庭の遊具の点検と充足率について</p> <p>5 粉塵対策とその進捗について</p> <p>(1) 窯業関連会社の粉塵に対して市民から苦情が出されていると聞かすが、これまでの経緯と本市の対応について</p> <p>(2) 市民の住みよい環境を守るため、今後の本市の対策は</p> <p>1 第2次総合計画の策定について</p> <p>(1) 第1次総合計画の検証結果をどう整理したか。特に、第4章の「活力あふれる産業のまちづくり」での10年後の望ましい姿と現状とのギャップについて</p> <p>(2) 策定に当たって市民参画はどうとるのか</p> <p>(3) 地域別まちづくりの方針に具体的プロジェクトを加えるべきと考えるが</p> <p>(4) 市民と行政と企業が計画を共有する体制をどうつくるか</p> <p>2 まちなか整備について</p> <p>(1) 千手寺周辺整備と市役所周辺整備の進捗は</p>
16	1	佐藤仁一郎	<p>1 市の花、木、鳥の選定に伴う市民一体感の醸成の推進策について</p> <p>(1) 市の花、木、鳥に選定されたひまわり、桜、マガンをどう思うか</p> <p>(2) 選定されたこれらを通じた市民一体感の醸成策を伺う</p> <p>(3) これらひまわり、桜、マガンを通じ、どのように大崎市を市内外にアピールしようとしているのか、伺う</p> <p>2 社会体育施設の今後の活用、改修方針について</p> <p>(1) 三本木体育館改修の方向性を伺う</p> <p>(2) 体育館トレーニング室等のトレーニング用備品、卓球台等の設置状況を伺う</p> <p>(3) 三本木野球場の改修方針について伺う</p>
17	17	山田和明	<p>1 鳴瀬川水系河川整備計画変更について</p> <p>(1) 吉田川上流部で流下能力を上げることで、川幅が狭い大郷町、大崎市鹿島台では流下能力を越えて水が流れ込むが、堤防は大丈夫なのか</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>(2) 吉田川上流部に整備する遊水地群の整備内容は</p> <p>(3) 東松島市の「ひと休みパーキング」がせり出しているため吉田川の流れを阻害していることから、河川整備により当該パーキングを撤去すべきと思うが、どうか</p> <p>(4) 大和町上流部にダム建設を求める声を大崎市から出すべきと思うが、どうか</p> <p>2 山王江排水路の整備について</p> <p>(1) 山王江排水路は山王江機械排水路が完成するまでは機能し、品井沼第7地域に水を流していた。現在は山王江機械排水路でほとんどの水を流している状況下であり、機械排水路に相当な負担がかかっている。水の分水を回り、内水対策の問題解決の一つとして山王江排水路を整備すべきと考えるが、いかがか伺う</p> <p>3 新改革プランで目指すべき地域医療の方向性について</p> <p>(1) 地域医療を踏まえた大崎市民病院、分院の役割の明確化について</p> <p>ア 地域の医療提供体制を目指す観点からの病床数は</p> <p>イ 地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みについて</p> <p>ウ 地域包括ケア病棟の取り組みについて</p> <p>4 被災者支援システムの導入について</p> <p>(1) このシステムの最大の特徴は、家屋被害ではなく被災者を中心に捉えていることであり、住民基本台帳のデータをベースに被災者台帳を作成し、これをもとに罹災証明書の発行、支援金や義援金の交付、救援物資の管理、仮設住宅の入退居など被災者支援に必要な情報を一元的に管理している。これによって、被災者支援業務の効率化、正確性及び公平性を図ることができることから、被災者支援システムの導入の考えについて伺う</p>
18	3	八木吉夫	<p>1 常襲冠水地区対策について</p> <p>(1) 頻発する異常気象、ゲリラ豪雨、台風による冠水被害を未然に防ぐための対策を伺う</p> <p>2 産業振興策について</p> <p>(1) 物づくり分野において、若者定住の観点からも高度技術者の養成、人材育成を図るために高度教育機関の学部、教室、研究室等の誘致をすべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>3 バスターミナルについて</p> <p>(1) 古川駅前のバス乗り場の屋根が現在の車輻高に適応せず、降雨時、降雪時には利用者に不便をかけているが、どのように捉えているのか、所見を伺う</p>
19	10	加藤善市	<p>1 予防ワクチンについて</p> <p>(1) 子宮頸がんワクチンについて</p> <p>ア ワクチン接種の現状について</p> <p>イ ワクチン接種者への健康調査について</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
20	16	富田文志	<p>(2) 今後のワクチン接種のあり方について</p> <p>2 鳴子向山地区の振興策について</p> <p>(1) これまでの取り組みについて</p> <p>ア 地元との振興策についての話し合いの現状について</p> <p>(2) 今後の取り組みについて</p> <p>3 大崎市の観光行政について</p> <p>(1) 鳴子を含めた現在の状況について</p> <p>(2) みやぎ大崎観光公社の役割について</p> <p>1 高齢者医療の現状と課題について</p> <p>(1) 高齢化の伸びと医療給付費の関係について</p> <p>ア 年代別人口構成（0～14, 15～64, 65～74, 75歳以上）で医療給付費を比較（平成元年, 20年, 27年, 37年（2025年）の推計）するとどのくらいの伸びになる見通しか, 伺う</p> <p>(2) 介護保険制度の改正が高齢者に与える影響は</p> <p>ア 今回の改正では介護認定の低い方の負担が重くなると指摘されているが, 改正の重要ポイントを伺う</p> <p>イ 大崎市の介護保険の総費用（保険給付費と利用者負担）は発足当時（2000年）と現在を比較し, どれほど増えているのか。また, 2025年の見通しはどうか, 伺う</p> <p>ウ 保険料率見直し年度については, 介護保険が3年, 国民健康保険と後期高齢者医療が2年で見直しが行われている。特に, 介護保険の介護サービス利用者と後期高齢者医療の被保険者は重なる場合が多いと思われる。それぞれ保険料率の決まるのが3年と2年では双方のサービスがわかりにくく, 利用しにくいと思われる。今後, 地域包括ケアを推進するためにも統一が必要ではないかと思うが, 考えを伺う</p> <p>(3) 国民健康保険制度改正は, これまで大崎市が運営してきたものを県と市がともに運営を担うことになる。県内統一に向けた取り組みは評価できるが, 今回の制度改正が目指すものは何か, 伺う</p>
21	7	相澤久義	<p>1 青少年スポーツ文化振興基金創設の考えについて</p> <p>(1) 大崎市内のスポーツ少年団, 高倉薬太鼓等の全国大会出場, 活躍は喜ばしいものである。市では, 全国大会等出場助成金交付事業として, 親の経済的負担軽減から出場登録選手, 監督もしくはコーチに対して経費の50%が補助されているが, それでも親の経済的負担は大きい。中総体などの大会は学校教育予算で全額助成だが, 違いの根拠は。また, 助成金の増額の考えは。</p> <p>ないとすれば, 青少年スポーツ文化振興基金を創設と, 財源を次のとおりと考える。</p> <p>次世代を担う青少年の育成こそ最大のまちづくりであることから, まちづくり基金から。全国大会の場で大崎市を全国に大いにPRできるため, 観光交流事業</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
			<p>費から。市内企業、個人からの指定寄附や大崎市誕生10年記念事業の残金。目標金額として各年1,000万円。できればおおさき宝大使である横綱白鵬関からも寄附をいただき、基金名称を大崎市青少年スポーツ文化振興「横綱白鵬夢基金」とし、子供たちが大きな夢を持ち、子供たちの夢を実現、叶える基金にしたいと考えるが、市の考え方を伺う</p> <p>2 障害者雇用率推進と工賃向上支援に対する大崎市の取り組みの方針は</p> <p>(1) 障害者雇用率2年連続全国最下位脱出を目指し、宮城県労働局や県、仙台市などは、9月1日、県内の企業や経済関連5団体に雇用の推進と維持を要請したと報道された。法定雇用率は地方公共団体2.3%となっているが、大崎市の障害者雇用率の状況（市長部局、教育委員会、水道部、病院）、正規職員、非常勤職員数、雇用率は。また、今後の障害者の新規職員採用計画と、目標とする大崎市の障害者雇用率の考え方を伺う</p> <p>(2) 市内の企業への雇用推進の考え方について</p> <p>ア 平成25年4月1日から障害者の法定雇用率が引き上げられ、民間企業50人以上雇用で2.0%となっているが、市内企業の障害者雇用の現状を把握しているのか</p> <p>イ 市内企業への一般就労、雇用推進方法はどのように行われたのか、昨年度の実績を伺う</p> <p>ウ 就労型施設利用者の一般就労への実績を伺う</p> <p>エ 就労継続B型事業所、地域活動支援センター等の工賃向上策で、平成19年度に策定された宮城県授産施設等工賃倍増5カ年計画では、県平均1万3,000円から、5年後の平成23年には2万7,000円に引き上げる計画となっており、平成24年度には宮城県工賃向上支援計画を策定し、平成27年度から平成29年度までを期間する第二期宮城県工賃向上支援計画も策定された。大崎市内における各施設の工賃の推移を伺う</p> <p>オ 各事業所は工賃向上のため製品開発などに取り組んでいる。第二期宮城県工賃向上支援計画により県から大崎市における取り組みへの協力依頼があるようだが、市の支援内容と取り組み内容は。 また、平成25年4月から障害者優先調達推進法が施行されたが、大崎市の取り組みと実績は。今後の取り組み方針を伺う</p> <p>3 三本木地域の人口増加策について</p> <p>(1) 三本木に住みたい、ひまわり園に通わせたいとして、他市町に住まいする多くの人から家を求める問い合わせが地元不動産業者に寄せられているというが、三本木地域には家を建てる場所がない。以前宅地造成した</p>	

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
22	27	大山 巖	<p>「しらとり地区」も完売し、空き家があっても貸してくれない、売ってくれないと業者は話している。</p> <p>三本木地域は、他地域と比較すると人口減少率も低く、鉄道こそ通っていないものの、仙台圏にも近く、人口増加が期待できる要素がある。</p> <p>三本木地域ではYKKAP南側の東浦地区が最適地であり、市は率先して優良宅地造成事業に取り組むべきと思うが、市の考えを伺う</p> <p>1 住民による自発的な地域活動に対し、財政面から支援することについて</p> <p>(1) まもなく世界遺産に登録されるであろう自然豊かな本市だが、高齢化率が高く、市が元気にならなければならないとの提唱を受けて、事業化に向けて地域の抱える課題と解決策を住民同士で話し合い、具体化した活動には支援協力しなければならないと考えるが、いかがか</p> <p>2 災害対策として行政として整備すべき事項について</p> <p>(1) 自主防災組織の中心的役割を果たす防災士の育成について</p> <p>ア 最近の災害は異常災害や異常降雨と呼ばれているが、地球の温暖化現象により、それは異常ではなく通常の現象なのかもしれない。そうしたときに頼りになるのは自主防災組織と防災士の活動であると考えているが、その育成について伺う</p> <p>(2) 消防分団への原付自転車の配備について</p> <p>ア 消防のように機動力を要する組織に、機動力は低いですが、原付自転車を配備してはどうか</p> <p>(3) 防災地図の見直しについて</p> <p>ア いつ発生するかわからない災害から生命を守るためには、危険を察知した場合、直ちに安全な場所に避難することが非常に重要であることから、防災地図の見直しが必要と考えるが、いかがか</p> <p>3 道路サポーター制度について</p> <p>(1) 市内自治会や企業、ボランティア団体等と協定を結び、道路の損傷情報の提供や軽微な補修、清掃活動などを行う道路サポーター制度を活用することについて</p> <p>(2) 街路樹の管理体制について</p> <p>4 第三セクターについての本市の今後の考えについて</p> <p>(1) 地域振興の切り札として、各自治体で多くの第三セクターが設立された。おのおの第三セクターの経営について、市長はどのような指導をしていくのか、伺う</p>	